

ナシ「恵水」の適正着果量は樹冠占有面積 1㎡当たり 10 果

農業総合センター園芸研究所

「恵水」成木で高品質かつ多収生産のための適正な着果量の目安は、樹冠占有面積 1㎡当たり 10 果です。若木期は、側枝（短果枝の着生した結果母枝）1 m 当たり 6 果程度とし、3 果そう当たり 1 果が着果の目安になります。



収量と一果重が優れる着果量

着果量 10 果/㎡では、収量 4 t/10a 以上の高収量が得られ、一果重 500g 以上の果実の割合が 60%前後と大玉果の割合が高くなります（表 1、2）。

着果量 8 果/㎡では一果重は大きいが収量は低く、12 果/㎡では着果過多傾向であり収量は多いが一果重が小さくなります。

表1 「恵水」の着果量が収量および一果重、糖度に及ぼす影響(平成26年)

着果量	収量 1) (t/10a)	果重		糖度			
		一果重(g)	400g以上の 果実割合(%)	500g以上の 果実割合(%)	Brix%	12%以上の 果実割合(%)	13%以上の 果実割合(%)
8果/㎡	4.0	557	88%	65	12.9	97	50
10果/㎡	4.8	541	89%	64	13.1	100	77
12果/㎡	5.1	504	77%	46	12.7	93	23

注1) 10a 当たり収量は、樹冠占有率90%で換算

注2) 試験樹は高接ぎ7年生

表2 「恵水」の着果量が収量および一果重、糖度に及ぼす影響(平成27年)

着果量	収量 1) (t/10a)	果重		糖度			
		一果重(g)	400g以上の 果実割合(%)	500g以上の 果実割合(%)	Brix%	12%以上の 果実割合(%)	13%以上の 果実割合(%)
8果/㎡	3.5	518	93%	50	12.5	82	12
10果/㎡	4.4	506	88%	55	12.5	80	16
12果/㎡	4.6	459	67%	34	12.2	68	6

注1) 10a 当たり収量は、樹冠占有率90%で換算

注2) 試験樹は高接ぎ8年生

品質（糖度）が優れる着果量

着果量 10 果/㎡では、8 果/㎡と同等の高糖度であり、12 果/㎡よりも高くなります（表 1、2）。

着果量 10 果/㎡では、12 果/㎡よりも一果重 500g 以上かつ糖度 13%以上の果実割合が高く、果実品質が安定しています。（図 1）。

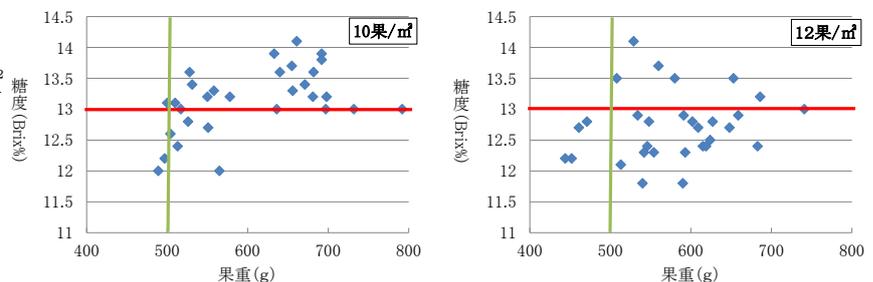


図1 「恵水」の一果重と糖度の関係（平成26年）

若木期の適正着果量

樹冠拡大中の若木期においては、樹冠占有面積当たりの着果量の確保が難しいため、側枝単位での着果量を基準とします。着果量 10 果/㎡での側枝 1 m 当たりの着果は 6 果程度で、3 果そう当たり 1 果の着果であり、若木期はこれを目安にしてください。

活用上の留意点

- 1) 摘果は満開後 30～40 日に 1 果そう 1 果に予備摘果を行い、その後満開後 60 日以内に仕上げ摘果をして適正な着果量に調節します。
- 2) 摘果では、果軸が長く太い 3～5 番果の果形が良い果実、棚線や幹および枝などにより果実が傷つけない位置のものを残します。
- 3) 試験樹は棚付けした枝全体における短果枝本数が 40～50%程度です。側枝育成確保の方法などについては「恵水」栽培管理マニュアルを参照してください。